

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含みである。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

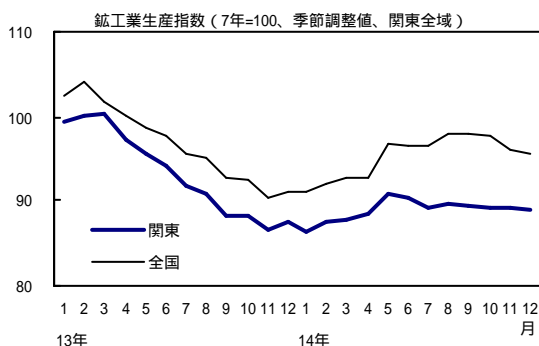
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 14 年 11 月）	今回（平成 15 年 2 月）	
総括表現	持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが緩やかになっている	
個人消費	おおむね横ばい	やや弱含み	
住宅建設	緩やかに減少	減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。（関東全域）

電気機械は、カメラ付携帯電話の新機種効果に加え、PDPテレビ、デジタルカメラ関連に動きがみられたものの、パーソナルコンピュータの不振が続いたことなどから10～12月期は前期比で減少となった。化学は、国内需要は低迷しているが、アジア向け外需が好調であり薄型テレビのフィルターなどに動きがみられたことから堅調に推移した。一般機械は、プレス用金型や半導体製造装置が7～9月期に好調だった反動から減少となった。輸送機械は輸出を中心に好調なほか、内需でも新車投入効果がみられ、堅調に推移している。



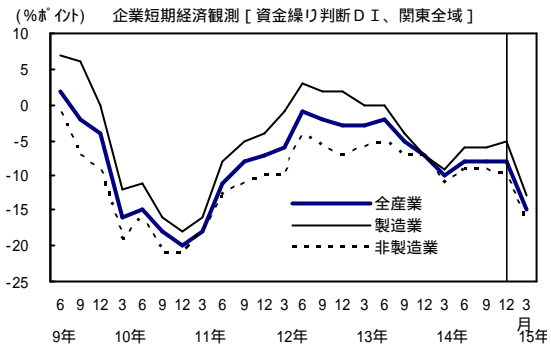
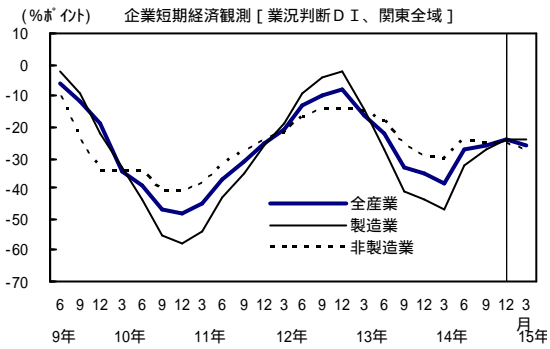
（備考）平成 14 年 12 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向（季節調整値、前期比増減率）（％）

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
電気機械	23.6	3.3	2.2	0.9	1.1
化学	13.2	1.8	0.8	0.2	0.1
一般機械	12.0	2.8	1.6	3.2	0.4
輸送機械	11.3	1.8	0.7	5.5	6.8
食料品・たばこ	5.8	3.5	0.6	1.1	1.8
鉱工業	100.0	0.4	0.3	0.6	0.5

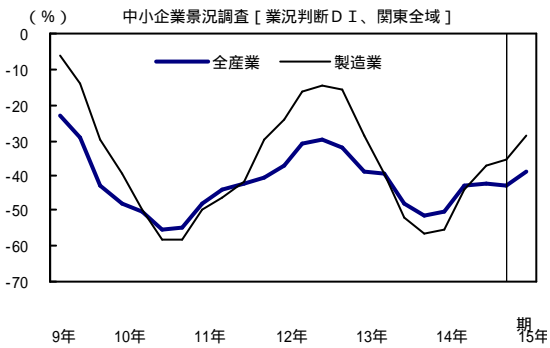
- （備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
 2. 10～12月期は速報値。
 3. 10～12月期の化学、食料品・たばこについては、10月、11月確報値の平均より算出。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年3月は予測。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「ユーザーに消耗品が一段と出なくなり、スポットの品物などはまるで動かない。1月から配送員の定年延長をやめている (化学工業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

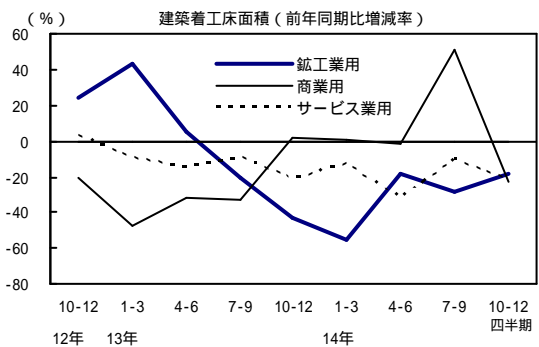
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査、関東全域)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	2.4	3.9 (1.9)
製造業	5.6	10.6 (0.7)
非製造業	3.4	3.1 (2.1)

(備考) ()は前回 (9月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

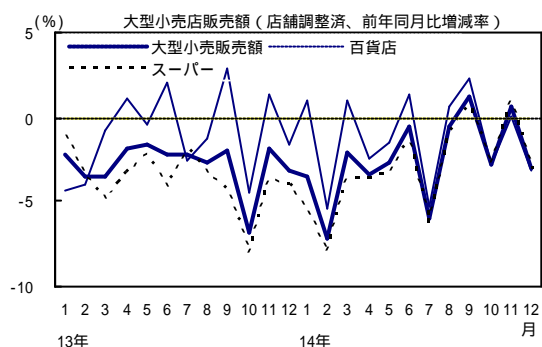
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月は家庭用品が低調であったことに加え、中旬まで気温が高く推移し、季節衣料品が伸び悩んだ。11月は歳暮ギフトの早期受注やセール等の効果に加え気温が低く推移したため、冬物商品に動きがみられ再びプラスに転じた。12月は身の回り品に動きがみられたものの、紳士服を中心に衣料品が不調であり、再びマイナスとなった。

スーパーは、健康志向食品が好調だったことに加え、BSE問題により低迷していた牛肉に回復の動きがみられたことなどから11月にはプラスとなった。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

「1月は、多くのブランドが冬物クリアランスを早めて初売りから実施し、前半の売上は好調であった。ただし、後半は雪と寒さで不調となり、1月全体としては引き続き厳しい状況となっている(百貨店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

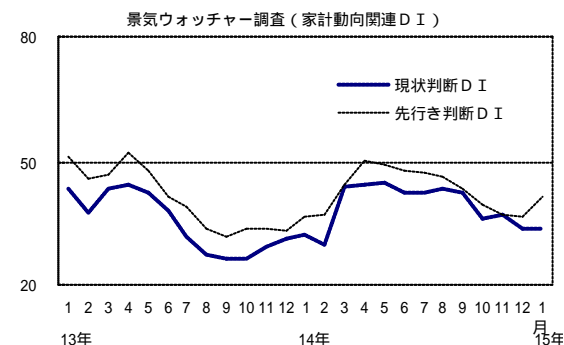
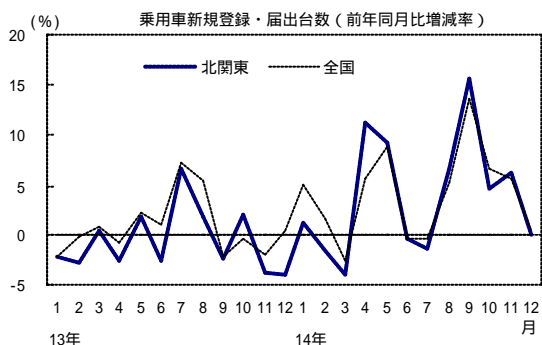


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	4.1	2.1	2.0	1.8
百貨店	0.8	0.8	1.2	2.0
スーパー	5.6	2.7	2.3	1.6
乗用車	2.1	6.1	6.8	3.7
景気ウォッチャー	35.2	43.7	42.4	34.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

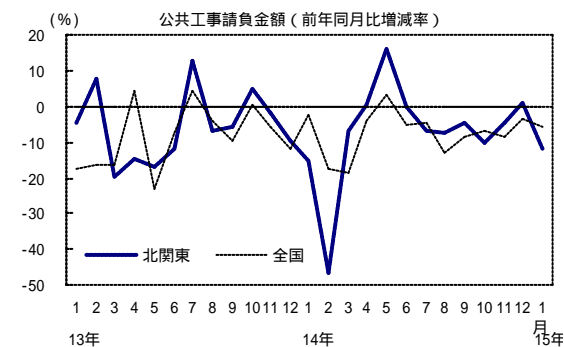
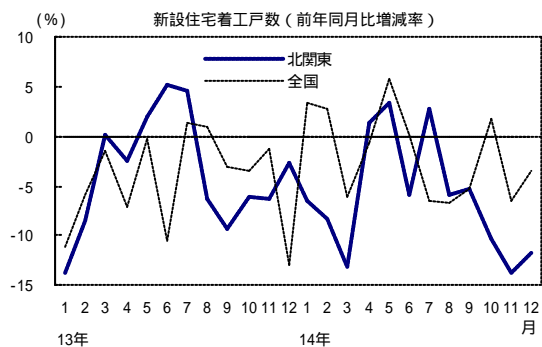
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲が大きく下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

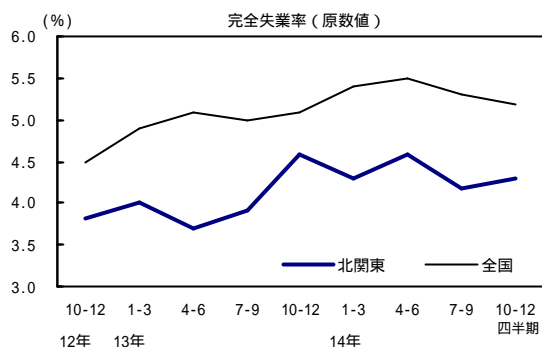
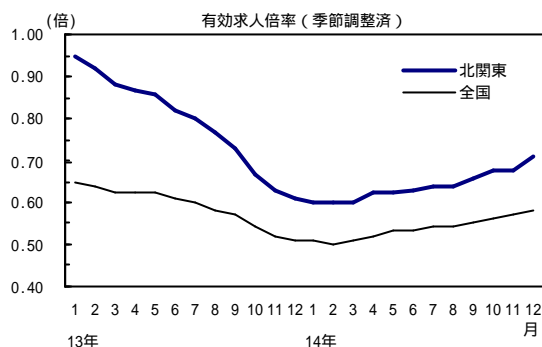


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ緩やかに上昇している。完全失業率は、前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

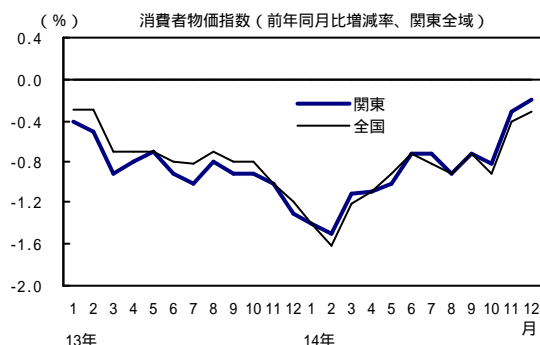
「例年この時期にある求人先の多くが経営が厳しく人員削減をしており、事務、技能職などの即戦力を求めて、必要に応じて人材派遣やパートで対応している(学校[短期大学])」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	15年1月
倒産件数	253	249	246	238	78
(前年比)	5.0	5.0	1.7	20.4	8.2
負債総額	1,977	1,185	1,053	1,402	257
(前年比)	37.6	34.5	23.7	25.6	26.7



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・地価の下落が進んでおり、最近では、持ち主が早く処分して少しでも楽になろうとして、信じられない金額があちこちで出ている。それに伴って、銀行の土地評価額も低くなるので、金を借りる際の担保の査定が非常に厳しくなっている(住宅販売会社)

<先行き>

・たばこや発泡酒の値上がりが決定し、他の物も値上げになるのではと、皆戦々恐々としている。行政の補助がカットされ、元気の出るイベントもできず、悪いままで変わらない(一般小売店[精肉])

